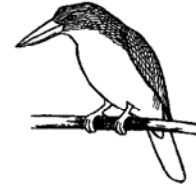


(公財)山階鳥類研究所
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115
電話：04-7182-1101 Fax：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>



(お知らせ)

聳島に移送したアホウドリのヒナの巣立ちについて

<環境省自然環境局 同時発表>

平成24年5月15日(火)
公益財団法人山階鳥類研究所

小笠原群島聳島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業として、今年の2月11日に伊豆諸島鳥島から聳島までヘリコプターで移送し、約3か月間、(公財)山階鳥類研究所の職員から給餌を受け成長したアホウドリのヒナ15羽(1羽は死亡)のうち1羽が5月15日の午前8時12分頃に、聳島北西端の飼育サイトより巣立ちましたので、お知らせいたします。

今後残りのヒナについても、順に巣立ち、巣立ち後は、過去の例から北太平洋のアリューシャン列島やベーリング海域まで渡っていくものと予想されます。

※この事業は、(公財)山階鳥類研究所が、環境省、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施しているもので、今年度が5か年目(移送は最終)となります。

● 巣立ったヒナについて

個体識別番号、性別については不明です。

● これまでの経過

<平成19年>

3月～6月 近縁種のクロアシアホウドリによる飼育試験を実施。

<平成20年>

2月19日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ10羽(雄4羽、雌6羽)をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)

5月19日～25日 ヒナの巣立ち

5月～9月 人工衛星追跡を実施し、追跡できた4羽がベーリング海へ到達。

聳島の飼育ヒナと鳥島の野生ヒナの巣立ち後の行動に大きな違いは見られなかった。

<平成21年>

2月5日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽(雄10羽、雌5羽)をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)
5月11日～25日 ヒナの巣立ち

<平成22年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽(雄11羽、雌4羽)をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)
5月18日～29日 ヒナの巣立ち

<平成23年>

2月8日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽(雄8羽、雌7羽)をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)
2月10日 平成20年に巣立ちした個体(3歳、雄)の聳島への帰還を確認。
5月12日～25日 ヒナの巣立ち

12月5日 平成20年に巣立ちした個体(3歳、雄)の聳島への帰還を確認。
(2月10日に帰還した個体が再び帰還した。)

<平成24年>

2月11日 伊豆諸島鳥島において捕獲したヒナ15羽(雄5羽、雌9羽、不明1羽)をヘリコプターに載せて、小笠原群島聳島まで移送。

↓ (山階鳥類研究所の職員が聳島に滞在し、ヒナの人工飼育を実施。)
(平成24年2月20日現在、聳島を巣立った個体3羽の帰還を確認。)

3月8日 移送したヒナ1羽の死亡を確認
5月15日 ヒナの巣立ち



飼育サイトのヒナとデコイ(5月8日)



はばたきの練習をするヒナ(5月8日)

写真提供：(公財)山階鳥類研究所

※画像のデジタルデータをご希望の方は下記までご連絡ください。

この件についての連絡先

(公財)山階鳥類研究所 (270-1145 我孫子市高野山115)
保全研究室長 尾崎清明 または事務局広報主任 平岡考
電話：04-7182-1107 (または04-7182-1104) Fax:04-7182-4342